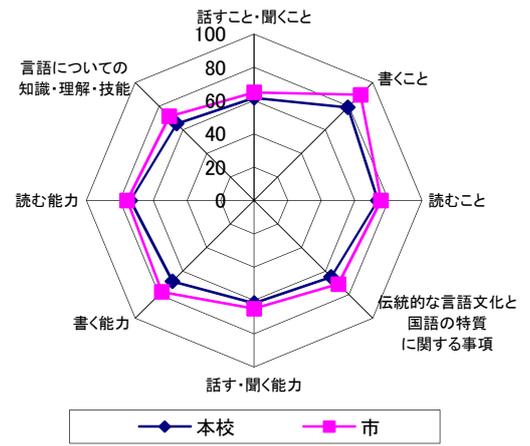


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	61.6	64.9	69.8
	書くこと	79.0	89.8	81.9
	読むこと	73.7	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.9	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	61.6	64.9	69.8
	書く能力	68.7	77.7	73.7
	読む能力	73.7	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	65.2	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

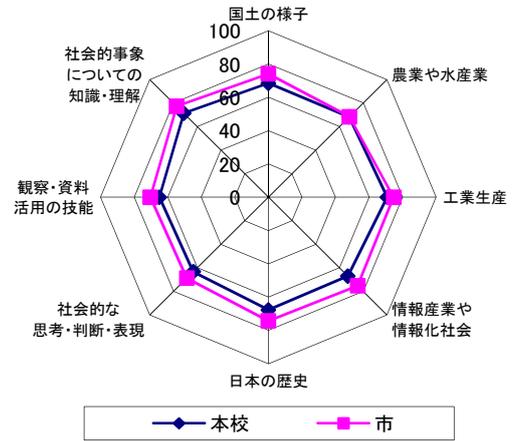
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○全体の平均値では市を下回ったが、内容の聞き取り等の力は市と同等である。4月に行った全国学力調査時と比べると平均との差が9ポイント縮んでいる。</p> <p>●司会の役割を理解し、司会者が言うべきことを記述する活用の場面での正答率が低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・これまで行ってきた聞くことの指導を引き続き行っていく。加えて、話すことの指導として、「自分の意見を分かりやすく話すこと」だけでなく、「司会者として話し合いを牽引していく」方法も、体験を通して学習させていくようにする。</p>
書くこと	<p>●市の平均より10ポイントも下回った。解答文の長さや段落構成などの、示された条件通りに意見文を書く書き方に慣れていない面と、無回答者の多さがポイントを大きく下げる原因となっている。</p>	<p>・多くの児童は、問題の意図を捉え答えることができたが、点数に表れなかった。そこで、問題の条件にあった書き方の学習をさせる。決められた文字数、段落の数などの条件作文を書かせる指導を行う。問題の出題者の意図を反映させた文の書き方を学ばせる。</p> <p>・無回答者に対する指導を引き続き行っていく。</p>
読むこと	<p>○全体の平均値では市を多少下回っているが、その差は小さくなってきている。4月に行った全国学力調査時と比べても平均値との差が3ポイント程度縮んでいる。与えられた情報を読み取り、適切に文に表す活用の力は市を上回った。</p> <p>●説明文や意見文を読む力は付いてきているが、物語文では、場面の描写などを読み取る力が十分でない。</p>	<p>・これまでどおり、文を読むことや理解しながら読み進むことを、繰り返し支援していく。教科書に書き込ませたり、つぶやきを拾ったりして自分の考えを持つことを重視した読む授業を行うようにする。</p> <p>・読書量を増やす指導をしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○言葉の学習については、熟語の構成や敬語についての内容などで市の平均値を上回る結果が得られた。</p> <p>●漢字の読み書きについては、市の平均値を下回り、特に5年の漢字についての正答率が低かった。</p>	<p>・今後も朝の学習や漢字豆テストを継続的に行い、力を付けさせていく。教科書に載っている熟語だけでなく、一般的な熟語にも範囲を広げ、漢字を応用する力を伸ばすようにする。</p> <p>・学習したばかりの漢字などは覚えているが、日がたつと忘れてしまう傾向があるので、小学校で習う漢字全体のまとめの漢字テストを行い、意欲向上とともに漢字の定着を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	68.4	74.1	72.5
	農業や水産業	68.2	68.4	61.6
	工業生産	70.9	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	67.0	75.3	74.0
	日本の歴史	67.7	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.3	68.7	64.2
	観察・資料活用 の技能	65.0	70.3	68.1
	社会的な事象についての知識・理解	71.3	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

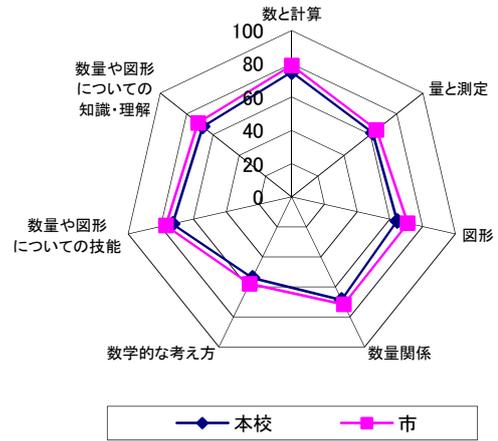
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>●正答率が68.4%と、市の平均を下回っている。特に、日本周辺の海洋名や、森林を守るための取り組みについての正答率が市の平均より10ポイント以上低かった。</p> <p>○社会的な事象についての知識・理解を問う問題では、正答率は70%を越え、概ね定着している。</p>	<p>・復習用のプリントや地図等を準備し、家庭学習等で活用し定着を図る。</p> <p>・「日本とつながりの深い国々」の単元において、日本と世界とのつながりを学習する際に、国土の位置や海洋名、近隣諸国について再度復習し、定着を図る。</p>
農業や水産業	<p>●正答率が68.2%で、市の平均に近いが、日本の食糧生産について、資料をもとに現状を考察する問題での正答率が53.4%と低かった。</p> <p>○米作りに関する問題では、正答率が70%を越え、概ね定着している。</p>	<p>・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。</p> <p>・「日本とつながりの深い国々」や「世界の未来や日本の役割」の単元において、世界とのつながりを学習する際に、日本の農業や水産業の特徴を再度確認し、定着を図る。</p>
工業生産	<p>○正答率が70.9%であり、概ね定着している。特に、自動車生産の工程については、88.3%とよく理解できている。</p> <p>●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る問題では、正答率が53.4%と低く、市の平均も下回っている。</p>	<p>・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。</p> <p>・地図やグラフの読み方、活用の方法について、確認する時間を再度設け、復習する。</p>
情報産業や情報化社会	<p>●正答率が67%と、定着率が低く、市の平均を8ポイント下回った。特に、情報ネットワークについて、コンビニを例に考察する問題での正答率が低かった。</p> <p>○情報の利用の仕方について判断する問題では、市の平均は下回ったものの、正答率が73.8%であり、概ね定着している。</p>	<p>・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、学習のみならず、日常生活においても指導していく。</p> <p>・復習用の教材を活用し、学習内容を再度確認する。さらに、各教科との関連を図るなどして、日常における情報産業や情報化社会についての理解を深め、定着を図っていく。</p>
日本の歴史	<p>●正答率が67.7%で、定着率が低かった。記述式の問題では、無回答の割合が高く、市の平均を10ポイント以上も上回っている。正答率も市の平均を大幅に下回っており、資料から読み取って、表現することを苦手とする児童が多かった。</p> <p>○社会的な事象についての知識・理解を問う問題では、正答率が70%を越えるものが多く、歴史上の出来事については理解できている児童が多い。</p>	<p>・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再度確認したり復習したりする。</p> <p>・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てていく。</p> <p>・家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	79.0	78.9
	量と測定	61.8	64.6	66.2
	図形	64.5	70.9	77.8
	数量関係	68.6	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	54.0	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	72.7	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	67.7	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

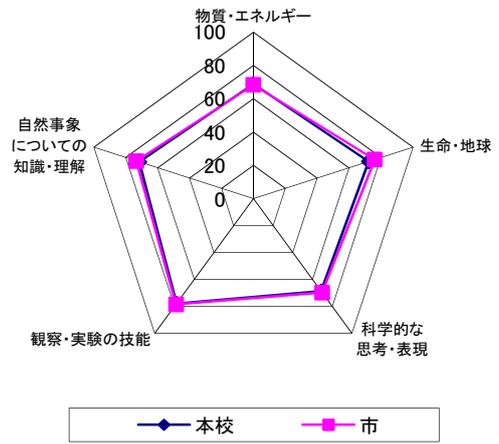
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の計算の問題では、正答率が90%近くあり、よく定着している。 ●図を使って、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題では、正答率がかなり低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
量と測定	●正答率が61.8%で、定着率が低い。特に、速さの問題と単位量当たりの大きさを求める問題で正答率が低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
図形	●正答率が64.5%で、定着率が低い。円周を求める問題や多角形の内角の和を計算で求める問題など、基本的な問題で正答率が低かった。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
数量関係	●円グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題で正答率が低かった。 ○比例や反比例の問題は正答率が80%を越え、よく身に付いていた。	・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.8	68.3	68.1
	生命・地球	72.4	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	68.7	69.7	68.0
	観察・実験の技能	77.9	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	71.5	73.4	73.9



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「ものの溶け方」「ものの燃え方」などの学習の正答率は、市の平均を5ポイント以上上回っている。 ●「ふりこのきまり」の学習で、実験の条件を修正する記述形式の問題について、無回答率が市の平均よりも10ポイント以上上回っている。	・実験時には、そろえる条件と変える条件を意識できるようにするとともに、実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるようにする。科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。また、復習用教材を活用し、各自再確認をさせていく。
生命・地球	○正答率が71.6%で、概ね定着しているといえる。「月と太陽」の学習で、上限の月が南中する時刻を答える問題は、市の平均を10ポイント以上上回った。 ●植物が光合成するために日光が必要なことを調べるための対照実験の理由を問う問題や植物が他の生き物を食べなくても生育できる理由を答える問題などの正答率は、10ポイントほど低かった。	・植物の光合成に日光が必要なことを調べる対照実験の意味を再確認するとともに、植物は、光合成をするので生育していくことや、食べ物のもとをたどると植物に行きつくことなどを再確認する。また、復習用教材を活用し、各自再確認をさせていく。実験はなるべく少人数で体験させ、言葉で確認していく授業を心がけるようにする。